



将来を見据えた営農体制の構築(人・農地プランの作成)

みやぐち

じょうえつし

宮口農地を守る会（新潟県上越市）

- 当地域は昭和50年に県営ほ場整備事業が実施されてから35年以上が経過し、施設の老朽化、営農者の高齢化が進んでいる。
- 上越市全体として集落営農、農業生産法人へ集積することで農業の体質強化を進めてきた。
- 農地・水保全管理支払交付金の取組により、話し合いの機会が増えたこと、活動を通して営農者間の繋がりが強まったことも関与して人・農地プランが円滑に作成できた。

【地区概要】

- ・取組面積 20ha(田 20ha)
- ・資源量
開水路0.6km、農道0.7km、
ため池 1カ所
- ・主な構成員
農業者、町内会、老人会、溜池組合
- ・交付金 約2百万円(H29)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

地域の現状

- 地域は、昭和50年のほ場整備後35年以上が経過した水田地帯で、施設の老朽化、営農者の高齢化が進んでいる。

活動の効果



人・農地プランを
作成した区域

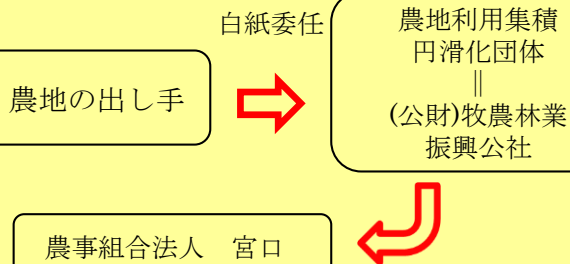


草刈や泥上げ等の共同活動

- 共同活動により地域の景観が良くなったことで自分たちの農地は自分たちで守ろうという意識が醸成された。

人・農地プランの作成

人・農地プランに基づく農地の流れ



活動組織の
合意形成

- 市全体の取組として集落営農や農業生産法人への集積をすることにより体質強化を進めてきた。
- 農地・水保全管理支払交付金の取組を行ってきた当地区では、共同活動の実施により集落の話し合いの機会が増え、地域の繋がりが強まったことも関係し、円滑に人・農地プランを作成することができた。